

ご挨拶

紅葉の美しい秋の真中で、市長、町長の皆様におかれましては多忙な公務の日々をお過ごしのことと存じます。心より敬意を表します。

さて、放射性廃棄物処分場の問題では市長、町長の皆様をはじめ、市民、町民の皆様から「反対署名やカンパ」など積極的で熱心な支援をいただいております。塩谷町民一人一人が口々に「有難い、有難い、うれしい」と申しております。本当に有難うございます。改めて、すべての町民を代表して心より感謝申し上げます。

既に、市長、町長の皆様はご承知の通り、放射性物質に対してはIAEAの国際基準がございます。私から申し上げるまでもないことですが、「封じ込め、拡散させない」がその原則です。

原発を保有する先進国では、IAEAの原則を厳守しながら、廃棄物の処理が行われています。フランスでも、ドイツでも、低線量放射性物質の保管場は、一国一箇所です。しかも地下300m以上で水漏れのしない場所です。あの広大な国土を保有しているアメリカでも、国内で処分場を作るかどうかを慎重に検討中です。いま、核物質の最終処分場を建設しているのはフィンランドだけです。設置場所は首都ヘルシンキから北西へ250km離れたバルト海のオルキルオト島です。その島にある原発の近く、地下490mまで掘った「オンカロ(=“洞窟”の意味)」です。以上で明らかのように、全ての国が放射性物質の処分に当たっては国際原則を遵守しているのです。

なぜか、人類の中でも、広島、長崎、福島原発事故によって核の恐ろしさを最も体験している日本だけが、放射性物質を拡散処理しようとしているのです。不思議です。

かつて、群馬県選出の福田赳夫総理大臣が「人間の生命は地球よりも重たい」といって、日航機をハイジャックした日本赤軍のメンバーを、射殺や逮捕することなく解放したことがありました。その群馬県では、知事、市町村長はもとより、県民が一丸となって県内処分場の建設の拒否を表明しています。人間の生命と健康を重んずる群馬県の伝統、面目躍如たるものがあります。

パッパホールのある、音楽好きで文化力の高い宮城の加美町の人々は、道路に身を投げ出して処分場を阻止しようとしています。その姿こそは最も人間らしい姿です。何故なら、子どもたちの未来、そこに棲む人間の未来を守るのが、いま生きている人間の歴史的な使命だからです。自らを犠牲にしても子どもたちの未来を守り、地域の人々の未来を守る、それこそが人間が人間であることの尊厳です。それを宮城県の全市町村長が全面的に支援し、国と県に対して政策の見直しを求めていることに、万感の共感と賛意と敬意を表します。茨城、千葉の県民も同じ気持ちであることを信じて疑っていません。いわんや栃木県民がそれらの人々に遅れをとるなどあってはならないし、遅れることはないと確信しております。

塩谷町民は、国際原則を遵守し一人の人間の生命が地球より重たいという人間の原則を踏まえて、処分場の問題に対処していく覚悟です。しかし、率直に申し上げて、私は町長として、責任の重さに耐えられるかどうか心痛の日々でした。そのとき多くの町民から、処分場に反対する町長の断固たる決意を求められました。私自身も町民の叱責に共感する日々でした。その結果として、断固たる決意を固めるに到りました。したがって本問題に、断固たる決意で対処する所存です。

いままでも市長、町長の皆様、市民、町民の皆様には、多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げますと共に、私ども町民の思いをご理解いただいて再度ご協力をいただけますよう、衷心よりお願い申し上げます。

私たちの処分場に対する認識と方針は、別紙「塩谷町が求めるもの」をご参照いただけますようお願い申し上げます。

平成 26 年 11 月

塩谷町長 見形和久